

いじめの三重構造（さんじゅうこうぞう）

「いじめ」って知っていますか。

校長先生が以前担任をしていたクラスでのお話です。

一人の女の子がクラスの男の子たちからいじめを受けました。校長先生はそのお話を聞いた時、悲しくて悲しくて仕方がありませんでした。胸がつぶれるような思いでした。でも、いじめを受けている女の子はもっともっと苦しかったことでしょう。

今日、校長先生がお話したいのは、その周りの人たちの話です。

そのときクラスの一人の女の子が「いじめをやめて」と言ったのです。そしたらもう一人の男の子が「やめろよ」と言ったのです。そしたらその輪が広がり、「やめろよ」がクラス中に広がりました。そしていじめをしている人もやめたのです。

いじめの三重構造って知っていますか。

一番目、いじめをしている人

二番目、いじめをまわりで「やれ、やれ」って言っている人

三番目、周りでだまってみている人

一番悪い人はだれですか？

もちろんいじめをしている人ですね。

でもね校長先生は周りでだまって見ている人も悪いと思います。

もし、いじめられている人がいたら、だまっていたはいけません。

「止めたら仕返しされる。」

「みんなにかっこつけてると思われる。」

そんなことは全くありません。いけないことはいけないのです。

「いじめをしていることを絶対に許さない」という気持ちが大切なんです。「悪いことは許さない」という気持ちをみんなでもつことが大事です。

六小でいじめがあったと聞きました。校長先生は胸がつぶれそうなくらい悲しくなりました。もちろん、その「いじめ」はすぐに解決しました。

でも校長先生は、そのとき周りにいた人たちはどうしていたのかと思います。「いじめを止めるよう言えたのかな？」「いじめを見たら知らんぷりしないで、先生たちにすぐに知らせてくれたかな？」どうだったんでしょうか。

「いじめは絶対許さない」という強い気持ち、六小のみんな全員で、しっかりもちましよう。

